

令和 2年度

事業報告書



社会福祉法人 永光会

特別養護老人ホーム清流の郷

管理部

特養部

デイサービス部

もくじ

1. はじめに	・・・・・・・・	1
2. 管理部	・・・・・・・・	3
1) 職員健康診断等状況	・・・・・・・・	4
2) 施設不在者投票・期日前投票	・・・・・・・・	4
3. 特養部	・・・・・・・・	5
1) 介護課	・・・・・・・・	6
2) 看護課	・・・・・・・・	7
3) 栄養調理課（給食状況）	・・・・・・・・	7
4. ショートステイ	・・・・・・・・	9
5. デイサービス部	・・・・・・・・	11
1) 介護保険事業	・・・・・・・・	11
2) 総合事業	・・・・・・・・	12
3) 介護課	・・・・・・・・	13
4) 看護課	・・・・・・・・	13
6. 付表		
管理部	（表-2） ～ （表-6）	・・ 15～18
特養部	（表-7） ～ （表-16）	・・ 19～21
ショートステイ	（表-17）	・・ 22
デイサービス部	（表-18） ～ （表-21）	・・ 23～25

1. はじめに（総括）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症に振り回された一年であった。まずは感染してお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、未だ戦い続けている医療従事者や関係者各位に感謝の意を表したい。

清流の郷はウイルス侵入と万が一侵入した際の感染拡大を防ぐため、あらゆる対策を講じた。詳細については各部署の報告に記載するが、利用者や家族には今までにはなかった制限をお願いして、ご迷惑をお掛けしてきた。また、職員も外出自粛やイベント等の参加制限に加え、施設内の感染対策に尽力し、とてもストレスが溜まる一年であったと思われる。対策に講じてきた全職員にも感謝したい。

令和3年3月末現在、幸いのことに利用者及び職員に感染者は出ていない。これからもより一層の感染予防に努めるとともに、早期の収束がなされることを切に願う。

さて、令和2年度は「人にやさしく 物にやさしく 社会にやさしく」を運営方針に事業を展開した。ここでは、主要な事柄だけの報告とするので、詳細については各部署報告を参照いただければと思う。

【施設全体・総務】今年度から渋川市が指定する洪水避難区域として、避難計画の作成とそれにとまなう第一回目の避難訓練を実施した。今後の課題も見つけられたよい訓練ができたと思う。来年度は、洪水・地震・感染症に関する事業継続計画（BCP）を完成させたい。

施設全体行事は新型コロナウイルス対策のために中止又は変更となり、施設開設以来毎年開催してきた「秋祭り」も中止となった。

また、会議場所の変更や進行方法の工夫、外部研修のオンライン参加等も今年度の大きな特徴と言える。

【特養】ベッド稼働率98%となり、目標97%を上回ることができた。特養部で今年度一番力を注いだのは家族との連携であった。当初、透明板を介しての面会を実施していたが、緊急事態宣言や県の警戒度が上がる中で対面からオンラインへ移行していった。利用者・家族が慣れない中、職員も対応に追われてご迷惑をお掛けしたが、現在ではスムーズに開始することができ、オンライン面会が日常の一部となってきている。

今年度、スリランカの方が入職した。清流の郷では初めての外国籍職員となるが、順調に一年を経過しており、今では施設に欠かせない介護職員となっている。現在、ネパールの方が再来年度入職に向けて、アルバイトをしている。通常の会話にはほとんど支障がないが読み書きがまだ不十分なため、今後の課題になっている。

【ショートステイ】ベッド稼働率は85%と目標にしていた93.3%には届かなかった（特養との合計ベッド稼働率は96.6%）。年度当初に出された非常事態宣言の中で利用控えの方も多く、また新規利用者もほとんどいない状態であった。施設内の感染対策の徹底や非常事態宣言解除等で徐々に利用者数が増加してきたが、例年よりも数百人の減少となってしまった。

【デイサービス】新型コロナウイルスの影響を一番受けたのはデイサービスであったと言える。月延べ利用者数の目標745人に対し、月平均662人と大きく減少し、昨年度と比較しても年間延べ1,000人以上の減少となってしまった。コロナを理由にした利用控えはあまりなかったようだが、新規の問い合わせが例年より少なく、結果として大幅な利用者数減少になってしまった。コロナ対策の補助や助成金が出てはいるが、早期に立て直しを図らないと運営が厳しくなる数値である。来年度は、新規受け入れ担当者の増加や相談業務の分散化等で、窓口業務のスムーズ化を検討中である。

最後に、新型コロナウイルス対策に掛かった費用について、表-1に示したい。新規で導入した設備や備品に加え、通常購入しているマスクやプラスチックグローブ等の感染症対策消耗品が高騰したことが対策費用上昇につながってしまった。

国からの新型コロナウイルス対策として、3,056,000円の助成金があったが、実質掛った費用はそれ以上で結果施設全体として、93万程の費用を捻出せざるを得なかった。

(表-1)

	特養	ショート	デイ	合計
感染症対策費用	2,602,594	365,037	1,020,094	3,987,725
助成事業額	1,900,000	264,400	892,000	3,056,000
差額(持出分)	702,594	101,037	128,094	931,725

2. 管理部

施設方針「人・物・社会にやさしく」を基に、新型コロナウイルス感染症を施設に侵入させないための取組と、令和2年度事業計画の目標を達成するため、以下の取組を実施した。

(新型コロナウイルスへの対応)

◎具体的な対策について、以下の項目を重点的に実施した。

[換 気] 職員や利用者からのリクエスト曲が流れる間に、施設全体で毎日2回(10時と16時)の換気を行った。

[入館時] 施設への入館者には、顔認証温度検知システムによる検温と、手指消毒の徹底を呼びかけた。

[消 毒] 入館者が使用したスリッパや接触した部分への消毒を徹底した。

[備 品] マスク等感染症対策備品(BCP関連物品含む)の確保を行った。

【年度目標 ①】業務で必要とする知識や技術を身につけるための研鑽に努める。

(評 価) 新型コロナウイルスの影響で外部研修へ参加できなかったが、施設で市の危機管理室の職員による「水災害に関する研修会」や、外部専門講師参加の「BCP見学会」で、災害対応へのアドバイスを直接に聞くことができ、災害訓練に反映させることができた。



◎令和2年9月17日(木)初の「水害訓練」実施。

[避 難] 1階利用者と職員を2階へ避難。

[移 送] 食料や生活備品、貴重品を2階へ移送。

[防 水] 1階入り口に、「土嚢シート」を設置。

今後も情報収集に努めながら、災害対策を実施していく。



【年度目標 ②】職員の健康増進のため、年間で「1人」以上の禁煙成功者の輩出を目指して“減煙”や“禁煙”を呼びかける。

(評 価) 永らく喫煙してきた愛煙家の1人が、禁煙に成功することができた。毎日のラジオ体操の後に、施設全体でコロナ対策の換気をしてきた。体操や窓開け時の移動などにより、自然と身体を動かす習慣ができ、職員の健康増進に有効的であることが解った。引き続き、ラジオ体操と換気の窓開けを行い、職員の健康増進に努めていく。



【年度目標 ③】省エネや環境保全に努める。

(評価) サンシェードやグリーンカーテンを設けて、室内温度を下げる工夫をするなど、空調使用方法を見直しながら節電に取り組んできた。



電気使用量は前年度と比べ変化は少なかったが、法人全体で電気料金契約に関する見直し等があり、料金を削減することができた。

今後も、グリーンカーテンを作成して、利用者と一緒に花芽や果実を楽しみながら、暑さなどへの対策を行っていきたい。

令和3年度も、施設に新型コロナウイルス等感染症を入れないための対応を行い、職員との連携を密に取りながら“働けて良かった”と思える職場環境づくりに取り組んでいく。

なお、年度目標以外の取組として、以下を実施した。

1) 職員健康診断等状況

1. 職員健康診断状況

令和 2年 7月28日	68人 (全体職員健診)
令和 2年12月15日	24人 (夜勤従事職員健診)

2. 職員インフルエンザ予防接種状況

令和 2年10月19日と26日	67人 (全体職員予防接種)
-----------------	----------------

3. ストレスチェック実施状況

令和 2年11月24日～30日	52人受検
-----------------	-------

2) 施設不在者投票・期日前投票 (特別養護老人ホーム利用者)

1. 令和 2年度 該当する選挙の実施なし

3. 特養部

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策を重点的に取組んだ結果、施設内への感染の侵入を防ぐことができた。

感染対策の一番の重点は、ご利用者のご家族の楽しみである『面会』をどうするかと、その代替えをどう工夫するか、施設内で検討を重ねた。衝立越しの面会やLINEを活用したオンライン面会の環境づくり、手紙（写真を添えて）や利用者の日常の様子を編集したDVDをご家族へ送付するなど、色々なことを試行錯誤し対応した。その結果、ご家族に大変喜んでもらうことができた。



LINE面会の様子

人材育成では、外部研修への参加は感染防止のため控え、内部の研修とオンライン研修への参加を重点的に進めた。

（新型コロナウイルスへの対応）

☆利用者の感染対策

- ①事前予約制のオンライン面会の実施（延べ217件）
- ②群馬県の警戒度に応じて、外部の人の入館制限（訪問理美容、オンブズマン、理学療法士 等）
- ③施設内の手すり等を消毒
- ④1日2回の『換気で喚起』と、それ以外の時間で換気を実施

☆職員の感染対策

- ①出勤前の検温の実施（発熱等のある職員の出勤停止と産業医等への受診）
- ②職員と職員の同居家族が接触者、濃厚接触者となった場合の出勤調整（停止も含め）
- ③原則、同居家族以外との外食や飲食の禁止
- ④勤務中のマスク、めがねの装着 等

事業計画の目標を達成するため、以下の取組を実施した。

【年度目標 ①】内部・外部研修の参加で職員スキルアップを図り、外部研修開催で社会貢献する。

（評価） 内部研修の開催とオンライン研修への参加を重点的に進め、複数の職員が資格取得や認定を受け、スキルアップとモチベーションアップをすることができた。

外部研修の開催は、新型コロナウイルスの影響により、外部からの依頼がなく開催することができなかった。

（中学生の職場体験、小中学校の福祉体験学習など）

【年度目標 ②】 季節行事等を多職種連携で開催する。

(評 価) 年間行事予定表に基づき、新型コロナウイルス対策を実施し季節行事を開催した。
毎年好評だった秋祭りは、開催することができなかった代わりに、
慶祝会をユニット毎で開催し、長寿のお祝いをした。
慶祝会にて利用者と職員とで視聴したDVDをご家族にも配布し、
ご家族から「感動した」「元気な様子が分かって良かった」等の声を
頂いた。



4月 花見



7月 お茶会



9月 慶祝会映像視聴と家族からの手紙

【年度目標 ③】 特別養護老人ホームベッド稼働率97%とする。

(評 価) 特別養護老人ホームベッドのベッド稼働率は98.0%と目標を達成することができた。(特別養護老人ホームとショートステイの合計ベッド稼働率は96.6%)

1) 介護課

【年度目標 ①】 人材確保と人材育成の体制づくりを目指す。

(評 価) 介護福祉士実習指導者講習会への参加は、感染リスクを減らすため自粛した。実習生の受入れは、職員と同等に実習期間中の感染対策のもと、受入れを行った。実習指導者マニュアル、実習生受入れマニュアルを作成した。作成したマニュアルを活用し、介護職員に対し、実習指導のための内部研修会を開催した。

【年度目標 ②】 介護職員のレベルアップとモチベーションアップを目指す。

(評 価) 介護プロフェッショナルキャリア段位制度アセッサーによる内部評価は介護職員2人に対して実施し、介護職員2人がレベル2②の認定を受けることができた。
介護職員1人が介護プロフェッショナルキャリア段位制度による評価者講習を修了し、評価者(アセッサー)となった。

【年度目標 ③】 時代に求められる施設介護職員としての役割の実践を目指す。

(評 価) 認知症ケアについては、ユニット会議で対応方法を検討して、対応方法の研究を行い、介護職員のスキルアップに繋がった。

喀痰吸引等研修（第二号）は、介護職員4人が受講を修了した。介護職員3人が実地研修を修了し、認定特定行為業務従事者認定証が交付された。

2) 看護課

【年度目標 ①】 看護職員全員が1回以上の研修に参加し、レベルアップとモチベーションアップを目指す。

（評 価） 外部研修参加は新型コロナウイルスの影響により、できなかった。内部研修では、喀痰吸引等研修（第二号）の指導看護師3人体制で、施設内の介護職員に対し、講義・演習を開催し、随時、実地研修の指導を行った。

【年度目標 ②】 ご利用者とそのご家族の意向を尊重し、安楽な最期を迎えられるように、嘱託医との連携を図り、施設全体と協力する。

（評 価） コロナ禍において入所者11人の看取りを嘱託医や他セクションと協力して、家族の意向をくみ取りながら、関わりが持てるように対応をすることができた。

3) 栄養調理課

【年度目標 ①】 食事バイキング等を2回以上開催し、日常の食事提供に活かす。

（評 価） 新型コロナウイルス対策のため、例年開催しているバイキングは実施をせず、6月におやつバイキング、9月に慶祝会、3月にはひなまつりイベントとして、大皿料理の提供を行った。ユニットごとにいつもと違う雰囲気での食事を楽しんで頂く事ができた。
（付表 行事食参照）

6月おやつ「蒸しパンバイキング」
6種類の蒸しパンから選択



9月慶祝会「清流御膳」
上：ソフト食 下：常菜



【年度目標②】利用者の身体状況に応じ、楽しく安全・安心に食事ができる、環境づくりを行う。

(評 価) 異物混入防止のため、作業前に粘着ローラー使用の徹底・作業工程の見直し・物品の取り扱い方法などの再確認を実施したが、異物混入の報告は3件あった。改善策が定着しつつあるが更なる減少、ゼロに向かい来年度以降も徹底していきたい。

栄養補助食品の有効的な提供ができるよう、多職種との連携を図り、利用者の喜び・笑顔を作り出すため、できるだけ形のある料理を提供することで、見た目にも楽しんで頂けるような、献立作りを心がけた。以前より導入している「スベラカーゼミート」(写真1)と「ソフミート」(写真2)を使い分け、魚料理を魚らしく・肉料理は肉らしく提供することができた。

細かく刻んでしまう料理とは違い食べやすく、見た目にもこだわることができた。

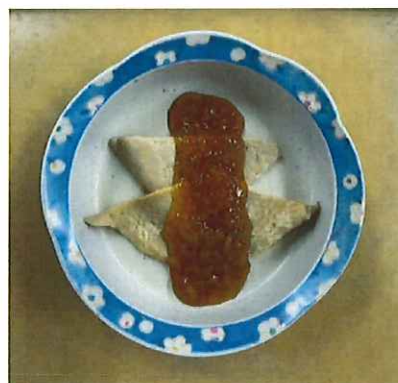
「スベラカーゼ」は、対象食材を検討し「ソフミート」は切り方や搾り方を工夫し、今後の献立のバリエーションを増やしていきたい。

調理例：豚肉の葱ソースがけ

スベラカーゼ使用(写真1)



ソフミート(写真2)



4. ショートステイ

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けた。緊急事態宣言が出された4月から5月は、新規契約者が0件で、利用控えなどもありベッド稼働率に影響がみられた。

6月以降、新規利用者の問い合わせが徐々にみられ、令和3年3月末までに14件の利用者と新規契約を締結したが、例年に比べ減少している。

利用中の利用者からは「コロナになるかもしれないからショートステイに行くのが怖い」「ここまで生きてきて、コロナで死にたくない」等、不安を訴える利用者がいたため、いつも以上に精神的なケアが求められる年だった。

(新型コロナウイルスへの対応)

☆利用者の感染対策

- ①送迎時に検温を実施、同居家族の健康状態の確認
(新型コロナウイルスの感染者との接触を含め)
- ②利用中の毎朝の検温を実施
- ③使用物品の消毒を実施
- ④1日2回の『換気で喚起』と、それ以外の時間で換気を実施

☆職員の感染対策

- ①出勤前の検温の実施(発熱等のある職員の出勤停止と産業医等への受診)
- ②職員と職員の同居家族が接触者、濃厚接触者となった場合の出勤調整(停止も含め)
- ③原則、同居家族以外との外食や飲食の禁止
- ④勤務中のマスク、めがねの装着など

事業計画の目標を達成するため、以下の取組を実施した。

【年度目標 ①】ショートステイベッド稼働率93.3%を目指す。

(評価) ショートステイ年間のベッド稼働率は85%と、目標を達成することは出来なかった。(毎月の利用者推移は別表)
新型コロナウイルスによる影響、定期利用者の利用終了(他施設入所や入院等)が重なり、利用者数を延ばすことができなかった。
居宅介護支援事業所へ定期的に空き情報を提供したが、問い合わせは少なかった。

【年度目標 ②】 基本的ケアのレベルアップを目指す。

(評 価) 内部研修（各委員会や会議等）への参加により、基本的ケアについての知識や技術の習得に努め、介護職員のレベルアップを図ることができた。

外部研修は、例年通りに受講することができなかった。

3月に介護職員1人がZOOMによるWEB研修を受講した。

【年度目標 ③】 送迎事故ゼロを目指す。

(評 価) 送迎をする職員に対し、送迎マニュアルを活用したOJT研修を実施した。また、ユニット会議において安全運転や運転中のマナーについて情報共有した結果、送迎事故ゼロを達成することができた。

【年度目標 ④】 心身機能の維持・向上を目的とした、リハビリプログラムの作成を目指す。

(評 価) 2人の利用者に対し、理学療法士が作成した個別リハビリプログラムを利用中に介護職員が実施した。なでしこユニットの喫茶スペースで手芸やドラマ観賞、いぶき農園では野菜の苗植えや収穫を楽しんだ。

口腔体操は飛沫による感染のリスクが高くなるため、身体を動かさず体操に切り替えて実施した。



なでしこユニット喫茶
(涼を楽しむ)



そば打ち名人によるそば作り



いぶき農園さつまいもの収穫

【年度目標 ⑤】 医療依存度が高い利用者の受入れ体制の構築を目指す。

(評 価) 喀痰吸引等研修は1人の介護職員が講義・演習の受講が修了した。
(実地研修を2人の介護職員が受講中)

ここ数年、医療依存度の高い方の問い合わせは減少している。

5. デイサービス部

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延が全国でみられ、群馬県でも日々感染者が増えている状況の中で、絶対にウイルスを持ち込まないために、感染防止の対策を徹底してきた1年であった。

(新型コロナウイルスへの対応)

※対策に関する実施画像、14ページに掲載。

- ①出勤時、手洗いうがいの徹底。
- ②送迎時、利用者検温、手指消毒の徹底。
- ③1動作1消毒の実施。(画像6)
- ④1日3回、デイサービスホールの換気。(画像4)
- ⑤各テーブルにクリア版を設置し、4人掛けを2人掛けにして、ソーシャルディスタンスを実施。(画像5)
- ⑥レク終了後、使用したイス等を次亜塩素酸にて拭き掃除の実施。(画像2)
- ⑦利用者が帰宅された後に、毎日、使用された椅子・テーブル・クリア版・車イスや床などを次亜塩素酸にて拭き掃除を実施。(画像1)
- ⑧送迎後、各車両の社内や手すり等を次亜塩素酸にて拭き掃除の実施。(画像3)

1) 介護保険事業

事業計画の目標を達成するため、以下の取組を実施した。

【年度目標 ①】利用者、家族、地域に安心・信頼される充実したサービスを目指す。

(評価) 関連機関との連携を図り、新規の問い合わせに関しては、柔軟に対応し、受け入れに繋げることができた。

また、新型コロナウイルスが全国に広がり、県内でも警戒度が上昇する中で、感染症防止対策をしっかりと行った結果、1年間休館することなく、サービスの提供ができた。

【年度目標 ②】利用者が可能な限り在宅生活を続けるために、個々の必要な機能訓練を行うことにより、心身機能の維持向上と、家族の介護負担の軽減を図る。

(評価) 4月から6月の間、緊急事態宣言発出のため、PTが来館できない状況になったが看護を中心に個別リハを継続することができた。

また、コロナ禍で毎年行われてきた行事も中止となり、デイでは、感染蔓延防止を徹底し、施設内イベントを企画。

日帰り旅行に替えて、5月は渋川市内の名所をホールに作成し、名所めぐりと昼食として水沢うどんを提供した。

10月は食事バイキングの実施と、「すーぱーこいけ」に依頼をして、ホールに出店をしてもらい、お菓子類等の買い物していただき、「気分転換ができた」と、利用者からは好評であった。

【年間目標 ③】 月間延べ利用者数「745人以上」の確保。

(評価) 月間延べ利用者数の平均は662人と、目標に対して大幅に下回る結果となった。

コロナ禍で休まれる利用者はあまりみられなかったが、ケアマネからの問い合わせが少なく、新規利用者が例年よりも少なかったことも要因とみられる。

また、昨年以上に、入所、長期入院される利用者も多かった。ケアマネとの連絡・連携は図れていたが、県内でコロナ感染者が増加している中、感染防止対策は徹底し実施し、コロナ以外の感染症も発症することはなかったが、前年度以上の新規利用者受け入れにつなげることができなかった。

(表-20と21参照)

2) 総合事業

【年度目標 ①】 利用者の自立支援を図る。

(評価) 課題のある利用者に対して、地域包括やケアマネと連携を図り、在宅生活の自立支援に向け情報を共有し実施できた。

【年度目標 ②】 月平均実利用者数「14人以上」の確保。

(評価) 月平均実利用者数は12.7人と目標達成にはならなかった。新規利用者も6人と前年度と比べると、マイナス4人減少であった。支援から介護、利用停止と数名みられた。また新規受け入れに向け、空き情報等、情報提供をしたが受け入れ増につながらなかった。

(表-22参照)

3) 介護課

【年度目標 ①】 専門職としてのスキルアップを目指し、介護技術や知識の向上に努め、通所介護計画に基づいたケアを提供する。

(評 価) 専門職としてのスキルアップに関しては、新型コロナウイルス感染のため施設外研修は参加できなかったが、施設内研修としての身体拘束等適正化研修や喀痰吸引研修、またノロウイルス対策感染防止マニュアルの実施訓練などを行い職員のスキルアップに繋げた。しかし、資格試験（介護福祉士、介護支援専門員）には挑戦したが合格者はいなかった。人事考課制度導入により行動規範や専門職として職員が意識して業務に取り組む姿勢が出てきたが、言葉使いやマナーなど接遇については、まだ個人差があり、今後の課題として取り組みたい。

【年度目標 ②】 安全運転の厳守、事故をゼロにする。

(評 価) コロナ禍のため、安全運転講習会は実施されず未参加だったが安全・安心な運転を行い、結果として大きな事故はなく違反者もいなかった。
※物損事故は1件

4) 看護課

【年度目標 ①】 医療情報に基づく対応、連携をしていく。

(評 価) 利用者の様子を観察し、家族や他機関との情報を交換することで、異常の早期発見に、つなげることができた。また、朝のバイタルチェックに加え、午後2時に検温を実施した。熱発時には家族へ迅速に連絡を取り、医療機関への受診対応につなげ、新型コロナウイルスの感染防止をすることができた。

【年度目標 ②】 筋力アップ効果の高いトレーニングを継続していく。

(評 価) 4月から新型コロナウイルスのため、PTが来荘できない状況であったが、既存のプログラムにて個別リハ、グループリハは継続し実施することができた。7月よりPTの来館が可能となり、新規利用者に対しプログラムが作成され、個々への必要なりハビリを実施することができ、筋力の維持につなげることができた。

新型コロナウイルス防止対策（画像1～画像6）



利用者帰宅後、クリア版、床、椅子を次亜塩素酸にて拭き掃除。（画像1）



使用後の車椅子や押し車、レク使用後の椅子を次亜塩素酸にて拭き掃除。（画像2）



送迎終了後、次亜塩素酸にて、車内手すり等を拭き掃除。（画像3）



1日3回の換気を実施。
（画像4）



ソーシャルディスタンスをとってクリア版を設置し、2人掛けで使用。
（画像5）



各自アルコールボトルを所持し1動作1消毒実施。
（画像6）

6. 付表

1) 施設整備等実施状況

(表-2)

単位：千円

項目	内容			備考		
備品購入	特養	バスリフト	1台	令和 2年 5月 27日納品		242
備品購入	特養	リクライニング車いす	1台	令和 2年 5月 27日納品		133
備品購入	特養	冷蔵庫	1台	令和 2年 6月 25日納品		107
設備更新	特養	自動水栓電気温水器	1式	令和 2年 6月 27日更新		143
設備更新	特養	自動水栓電気温水器	3式	令和 2年 7月 25日更新		429
設備更新	特養・デイ	ガス給湯器	2式	令和 2年 11月 25日更新	1,	012
備品購入	デイ・SS	顔認証温度検知システム	1式	令和 2年 12月 11日納品		253
設備設置	施設全体	W i - f i 設備工事	1式	令和 2年 12月 15日設置	1,	500
備品購入	特養	離床センサー内蔵ベッド	4台	令和 2年 12月 22日納品	1,	320
設備更新	特養	自動水栓電気温水器	2式	令和 3年 1月 28日更新		287
設備更新	栄養調理課	食器洗浄機	1式	令和 3年 3月 23日納品		957

2) 施設外研修と会議

(表-3)

出席件数 (前年度)

職種	部会・定例会・会議	一般研修	県外研修
施設長	6 (28)	5 (9)	0 (0)
特養相談員	1 (9)	2 (8)	0 (0)
デイ相談員	1 (3)	2 (3)	0 (0)
介護職員	0 (7)	2 (25)	0 (1)
看護職員	0 (0)	1 (3)	0 (0)
栄養調理・管理部職員	1 (1)	3 (10)	0 (0)

※外部講師による施設開催の研修と、WEBによるリモート研修参加数を含む。

※運営会議と管理部会議、人事考課と編集の両委員会は法人開催により上記に含まない。

3) 会議の実施状況

(表-4)

会議名	実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
法人運営会議	1 2	4	理事長、業務執行理事、事務長、	法人各事業の運営・管理及び法人懸案事項の決定
部長会議	1 2	4	施設長、生活相談員、管理副部長	施設各事業の運営・管理及び施設懸案事項の決定
代表者会議	1 2	9	理事長、施設長、生活相談員、ケアマネ、看護係長、栄養士、調理係長、管理副部長	各部門懸案事項の審議、方針の徹底等
衛生委員会	1 2	9	施設長、衛生委員、産業医	労務の安全性と職員の健康保持促進の検討・啓発
リスクマネジメント委員会	1 2	9	施設長、リスクマネジメント委員	事故分析、環境整備、マニュアル見直し
感染症対策委員会	1 2	9	施設長、感染症対策委員	感染症に対する対策について協議・検討
入所等検討委員会	1 2	1 0	施設長、特養相談員、第三者委員、ケアマネ、介護・看護職員、栄養士	施設利用待機者の入所順序を審議・検討
サービス担当者会議	1 2	9	施設長、ケアマネ、特養相談員、特養介護・看護職員、栄養士	利用者ケアプラン作成、モニタリングなど
褥瘡対策委員会	1 2	9	施設長、特養相談員、ケアマネ、特養介護・看護職員、栄養士	褥瘡予防、対応方法の検討、マニュアルの見直し
ユニットリーダー会議	1 2	8	施設長、特養相談員、ケアマネ、介護課長、ユニットリーダー	ユニット介護サービス懸案事項の協議・検討
特養介護課会議	1 2	2 1	施設長、特養相談員、特養介護職員	介護サービス懸案事項の協議・研修
デイサービス全体会議	1 2	1 5	施設長、デイ相談員、デイ介護職員、デイ看護職員	デイサービス懸案事項の協議・研修
栄養調理課会議	1 2	8	施設長、栄養士、調理職員	栄養調理課内の諸事項の協議・研修
排泄委員会	1 2	6	施設長、特養相談員、排泄委員、メーカーアドバイザー	排泄介助のための協議・検討と実施、反省
栄養委員会	1 2	6	施設長、特養相談員、栄養士、栄養委員	給食に関する事項審議、行事食、処遇改善策
食事委員会	1 2	8	施設長、特養相談員、管理栄養士、栄養士、食事委員	食事に関する事項審議 食事介助及び処遇改善
防災管理委員会	1 2	6	施設長、防災委員、訓練参加職員、	防災計画、訓練実施と反省、安全管理と点検

「実施回数」は、年間の会議回数を表し、「平均出席」は、会議への平均参加人数を表す。

4) 職員の配置状況

(表-5)

	特別養護老人ホーム			デイサービス		
	人数	年齢(平均)	勤続(平均)	人数	年齢(平均)	勤続(平均)
施設長	1	55	4.0	(1)		
事務職員	2	57	13.0	(2)		
生活相談員	1	43	13.0	1	46	6.1
介護支援専門員	(2)			(5)		
介護職員	28	43	7.0	9	46	7.5
(非常勤)	3	67	8.7	5	65	7.8
看護職員	4	53	7.4	2	58	7.5
(非常勤)	1	42	7.5	1	76	12.0
機能訓練指導員						
(非常勤)	1	49	13.0	1	30	4.0
栄養士	1	28	1.3	(1)		
調理職員	5	40	6.4	(5)		
(非常勤)						
医師						
(非常勤)	2	62	12.2			
清掃洗濯職員						
(非常勤)	4	56	6.6	(4)		
合計 常勤	42	46	7.4	12	50	7.0
合計 (非常勤)	11	55	9.6	7	57	7.9

() は兼務

令和 3年 3月 31日現在

・特養介護支援専門員は、介護職員が兼務

・デイ生活相談員は、デイ介護職員が兼務

兼務者は合計から外す

年齢、勤続の合計は平均

5) 職員の資格取得状況

(表-6)

		社会福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	調理師	認定特定行為業務者 (喀痰吸引)従事者	介護職員基礎研修
特 養	生活相談員	1	1	1							
	介護職員		24	4						21	5
	看護職員				4	1					
デ イ	生活相談員		1								
	介護職員		7	1		1				1	
	看護職員					3					
栄 養	栄養士							1			
	調理職員							1	4		
令和 2年度 合計		1	33	6	4	5	0	2	4	22	5
令和 元年度 合計		1	34	5	4	6	0	2	4	23	4

重複資格取得者あり

令和 3年 3月31日現在

特養 入退所状況 (表-7)

	実利用者数	入所者数	退所者数
男	11人(13)	4人(4)	3人(6)
女	51人(49)	9人(10)	10人(7)
合計	62人(62)	13人(14)	13人(13)

(入所者内訳) (表-8)

	病 院	老人保健施設	在 宅	その他
男	1人	0人	2人	1人
女	4人	1人	2人	2人

(退所者内訳) (表-9)

	死 亡	長期入院	在宅復帰	その他
男	3人	0人	0人	0人
女	9人	1人	0人	0人

市町村別(介護保険者)入退所状況 (表-10)

澁川市	沼田市	中之条町
58人	1人	2人

給食数 (表-11)

(単位: 食)

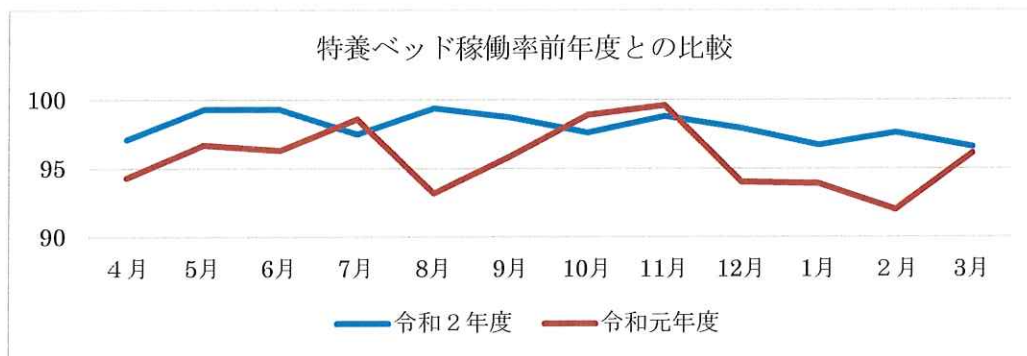
	一日平均食数	年間合計
特 養 利用者	148	54,057
ショートステイ利用者	13	5,066
デイサービス 利用者	23	8,704
特養職員 (夜勤等勤務者)	10	3,845
合 計	194	71,672

行事食 (表-12)

日 付	行 事 名	食 事	食 事 内 容
5月 6日	端午の節句 お茶会	おやつ	・柏餅、柏餅風和菓子、スベラカーゼ餅、抹茶
6月 25日	おやつ バイキング	おやつ	・蒸しパン5種、飲み物
7月 7日 21日	七夕 土用の丑	おやつ 昼食	・和菓子、抹茶 ・うなぎちらし寿司
8月 14日	お盆	おやつ	・おはぎ
9月 21日	慶祝会	昼食	・栗入り赤飯、豚角煮、天ぷら(えび・さつまいも)、 ポテトサラダ、しば漬け、メロン、和菓子、すまし汁
12月 9日 16日 21日 25日 28日 31日	忘年会 デイ忘年会 冬至 クリスマス 餅つき 大晦日	昼食 昼食 おやつ 昼食 おやつ 夕食	・鍋、うどん、刺身、ほうれん草の胡麻和え、他 ・海鮮丼、茶碗蒸し、けんちん汁、他 ・かぼちゃ御飯、他 ・クリスマスケーキ、シャンメリー ・おしるこ、おろし、きな粉、他 ・年越し天ぷらそば、ほうれん草の萌黄和え、他
1月 1日 7日 11日	新年祝賀会 七草粥 初釜	昼食 朝食 おやつ	・ぶり照り焼き、豚角煮、紅白なます、黒豆、雑煮、 栗きんとん、きんぴら、紅白蒲鉾、昆布巻、みかん、 伊達巻、里芋煮、他 ・七草粥風、他 ・おしるこ、抹茶
2月 3日	節分	おやつ	・鬼プリン
3月 2日 20日	ひなまつり お彼岸	昼食 おやつ	・ちらし寿司、天ぷら、豚肉のふき味噌焼き、ポテト サラダ、五目たまごやき、ケーキ、桜もち、他 ・ぼたもち

・毎月1日は赤飯提供

特養ベッド稼働率（月別） （表－13）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度	97.1	99.3	99.3	97.5	99.4	98.7	97.6	98.8	97.9	96.7	97.6	96.6	98.0
令和元年度	94.3	96.7	96.3	98.6	93.2	95.9	98.9	99.6	94.0	93.9	92.0	96.1	95.8

特養 月別 入院者推移 （表－14）

実入院者数	4人	延入院者数	4人
延入院日数	12日	一人平均入院日数	3日
最長入院日数	8日	最少入院日数	1日

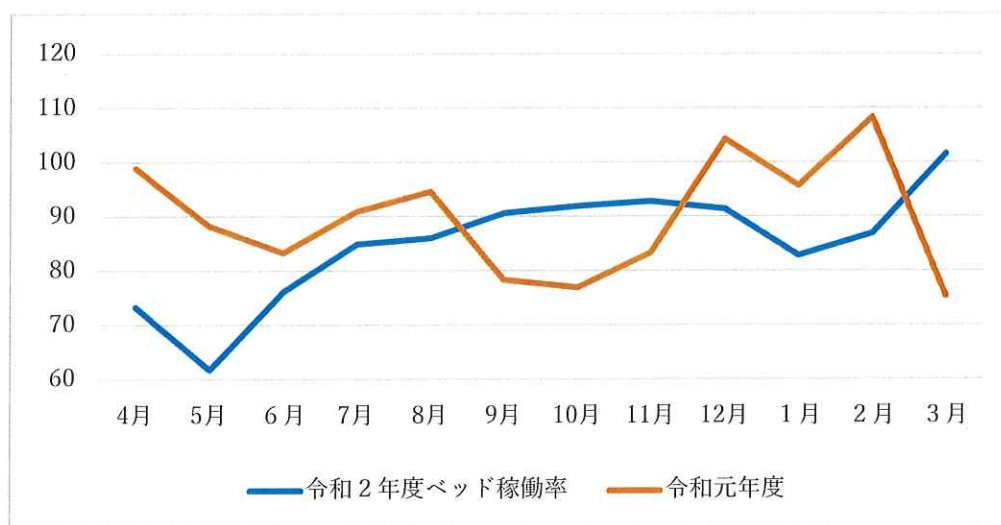
特養 実入院者数と延入院者数（月別） （表－15）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実入院者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	1人	0人	0人
延入院者数	8人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	3人	1人	0人	0人

特養 令和2年度実習生受入れ （表－16）

実習校名	実人数	延人数	備考
群馬パース大学福祉専門学校	2人	24人	介護実習Ⅰ－(2)
	2人	34人	介護実習Ⅰ－(3)
	2人	46人	介護実習Ⅱ
群馬県立渋川青翠高等学校	23人	23人	介護職員初任者研修

ショートステイベッド稼働率前年度との比較 (表-17)



ショートステイ利用者推移 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和2年度 合計	令和元年度 合計
実利用者数 (人)	17	14	15	16	17	16	17	13	15	14	14	16	184	280
ベッド稼働率 (%)	73.3	61.8	76.1	84.9	86.0	90.6	91.9	92.8	91.4	82.8	86.9	101.6	85.0	89.5
ベッド稼働率 (日)	4.4	3.7	4.6	5.1	5.2	5.4	5.5	5.6	5.5	5.0	5.2	6.1	5.1	5.4
延べ利用者数 (人)	132	115	137	158	160	163	171	167	170	154	146	189	1,862	1,958

通所介護、年度毎の利用状況推移 (表-18)

	営業日数	実利用者数	延べ利用者数	1日平均利用者数	1日目標数	平均稼働率
平成26年度	365日	922人	9,022人	24.7人	24.0人	103.00%
平成27年度	365日	878人	9,003人	24.6人	24.5人	100.40%
平成28年度	365日	897人	9,582人	26.2人	24.5人	107.00%
平成29年度	365日	857人	9,257人	25.4人	26.0人	97.70%
平成30年度	365日	815人	9,027人	24.7人	26.5人	93.21%
令和元年度	366日	803人	9,020人	24.6人	24.2人	100.40%
令和2年度	365日	700人	7,940人	21.8人	24.5人	89.38%

通所介護、要介護度別利用者推移 (表-19)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成27年度	3,902人	3,064人	1,067人	510人	460人	9,003人
	43.34%	34.03%	11.85%	5.66%	5.11%	100%
平成28年度	4,160人	3,088人	1,406人	620人	308人	9,582人
	43.41%	32.23%	14.67%	6.47%	3.21%	100%
平成29年度	4,055人	3,211人	1,002人	618人	371人	9,257人
	43.80%	34.69%	10.82%	6.68%	4.01%	100%
平成30年度	3,549人	3,178人	937人	563人	800人	9,027人
	39.32%	35.21%	10.38%	6.24%	8.86%	100%
令和元年度	3,315人	3,132人	1,220人	506人	847人	9,020人
	36.75%	34.72%	13.53%	5.61%	9.39%	100%
令和2年度	3,105人	2,425人	1,417人	506人	487人	7,940人
	39.11%	30.54%	17.85%	6.37%	6.13%	100%

総合事業（通所介護予防）月別利用状況（表－20）

	営業日数	実利用者数	延べ利用者数	新規利用者数	平均利用者数
4月	30	12	82	1	2.7
5月	31	12	81	0	2.6
6月	30	13	93	1	3.1
7月	31	13	95	0	3.1
8月	31	14	83	2	2.7
9月	30	14	88	0	2.9
10月	31	13	86	0	2.8
11月	30	13	85	1	2.8
12月	31	12	90	0	2.9
1月	31	12	87	0	2.8
2月	28	12	85	0	3.0
3月	31	12	99	1	3.2
令和2年度合計	365	152	1,054	6	2.9
令和元年度合計	366	155	961	10	2.6

通所介護と総合事業の年間行事 (表-21)

	行事名	内容
4月	お花見	送迎時に花見の実施
5月	お楽しみ会	交流ホールに渋川名所を作成し、名所巡り
6月		
7月	七夕	七夕飾りを作成し、交流ホールへ設置
8月		
9月	お楽しみ会	昼食バイキング
10月	おやつ作り	職員がおやつを作り提供
11月	作品展	日々のデイで作った作品や個人の作品を展示
12月	忘年会	デイホールで忘年会を実施
1月	初詣	絵馬を作成し、清流神社へのお参り
2月	節分	無病息災を祈り、豆まきを実施
3月	おやつ作り	職員がおやつを作り提供

毎月26日を「風呂“ふろ”の日」として企画をし、5月は「菖蒲湯」、7月は「薔薇湯」、10月は「リンゴ湯」、12月は「柚子湯」をそれぞれ行い、利用者からは「季節感が感じられて嬉しい」と、好評であった。